



## 目 次

薬用植物の紹介	薬用植物園長	草野源次郎	1
追悼 故堀田輝明元学長を偲ぶ	学長	岡源郎	2
新任の挨拶	教授（臨床薬剤学）	田中一彦	3
平成10年度市民講座を終えて	市民講座委員長	藤田直	4
平成10年度公開教育講座	公開教育講座委員長	掛見正郎	5
平成10年度進学説明会	教務部長	栗原拓史	7
オープンキャンパス'98 と今後の課題	入試実施委員	藤田芳一	7
第33回大薬祭を振り返って	学生部長	坂田勝治	9
平成10年度就職状況中間報告	就職部	就職部	11
平成9年度学校法人決算について	事務局長	河野光次	12
総務課だより（人事・海外出張・学位授与）／平成11年度大学院薬学研究科博士前期課程 （修士課程）入学試験結果			13
学生課だより			14
関西薬連・全薬大会結果（平成10年度）			15
図書館だより／平成11年度推薦入試について／実験動物慰霊祭			16
平成10年度後期行事予定			17

## ヒナタイノコズチ *Achyranthes fauriei* Lev. et Van. (ヒユ科)

日本や中国の道傍や荒地に普通に見られる多年生草本である。その和名の由来には日向に生えるイノコズチの意味が込められている。イノコズチの由来は諸説があるが、「猪の鼓槌」説が一般的である。漢名が「牛膝」で、この植物の大きい節から牛の膝を連想したものであろう。鼓槌は握り棒の先に小形の太鼓がついており、握り棒を茎に、太鼓を節に見立てたのであろう。猪は漢名の牛が置き換えられたのであろうか。鼓槌が膝を意味するのであれば、現代の私にも納得がいく。しかし、イノコズチの和名を付けた人達には別の感性があったようにも思われる。

ヒナタイノコズチはヒカゲイノコズチに似ているが、葉が厚く、多毛で、葉縁が波状にねじれる点で区別される。草丈は40~90cmであるが、本学薬用植物園のものは1.5mに達している。茎は4稜性で、節が膨らむ。夏~秋にかけて、葉の付け根から花柄を伸ばし、穂状花序に緑色の小花をつける。小花は花軸から横を向いて咲くが、成熟すると下を向く。花被片は5枚で堅い。花被を包む3枚の小包のうち、2枚が刺状になり、物につき易くなる。果実が着物や動物につき易い植物を「ひつつきむし」、「ばか」などと呼ぶが、イノコズチもその仲間の植物である。

肥大した根を乾燥したものが、和漢薬の「牛膝」である。中国産の懷牛膝 *Achyranthes bidentata* Blume と共に、牛膝散、牛車腎気丸、折衝飲、疎経活血湯などの漢方薬に配合される。牛膝は神農本草経の上品に分類されている120種の生薬の1種で、「生命を養い、毒性が低く、連用は健康の維持増進に役立つ。特に、手足が硬直し、膝が痛くて伸びないときに治療効果を示す」と記載されている。含有成分としては、オレアノール酸を非糖体とする配糖体、イノコステロン、エクジステロン、ルブロステロンなどの昆虫脱皮ホルモンまたは類似化合物、GABA、ベタイン、硝酸カリウムなどが知られている。オレアノール酸配糖体はサポニンで、牛膝を水と振ると持続性の泡を生ずる理由になっている。

牛膝からイノコステロンとエクジステロンを発見したのは西本喜重さん（当時ロート製薬㈱研究員、後に徳島文理大学教授）で、植物にも昆虫脱皮ホルモンが含まれることを明らかにした最初であった。

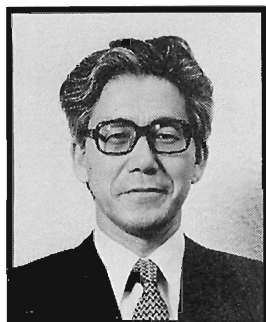


西本さんはロート製薬㈱で単離の実験をされ、機器分析のためにサンプルを恩師の竹本常松教授に送られた。赤外線吸収スペクトル、元素分析、60メガヘルツの核磁気共鳴スペクトルを測定したり、分析センターに依頼するのは、当時院生であった小生の役目であった。西本さんが、2種類の結晶のうち一方の性状がエクジステロンのそれによく似ていると、大阪から仙台に来られてホッフマイスターらの報告と比較して見せてくれた。竹本教授から意見を求められて、西本さんのいわれる通りだと思いますといったときの感動を今も覚えている。

昆虫脱皮ホルモンは、はじめエクジソンがブテナントらにより、カイコの蛹から発見され、構造が報告された。それに続いて、ブテナントの孫弟子のホッフマイスターが、OHが1個多く活性の強いエクジステロンを発見して、構造を報告した。1966年9月のことである。カイコの蛹1トンからエクジステロン9mgを単離したもので、100万ドルの結晶と騒がれた。それと同じ結晶がヒナタイノコズチから、0.4%の収率で得られたのであった。時を同じくして、東北大理学部の中西香爾教授らは台湾産のトガリバマキからポナスステロンA、B、Cと名付けた昆虫脱皮ホルモン活性物質を発見した。結局、60数種の植物由来の昆虫脱皮ホルモン活性物質の多くは、東北大学薬学部と理学部の100mと離れていない、竹本、中西両研究室で発見された。

大きく成長したヒナタイノコズチを眺めながら、30有余年前の熱い日々を思った。

(文・写真 教授 草野源次郎)



## 故 堀田輝明元学長を偲ぶ

学 長 岡 源 郎

本学の学長として、また教授として長年にわたり御活躍されました堀田輝明先生が、今年の4月30日夜急逝されました。まだ74才というお歳でした。

私が堀田先生と初めてお会いしたのは、私が本学に戻り、初めて出席させて頂いた理事会での席でした。非常に落ち着いた、まさに大学教授という名にふさわしい雰囲気をお持ちの先生でした。そして口数少なく貴重な御意見を述べられておられたのを覚えています。

先生は御略歴にもありますように、京都大学文学部哲学科（倫理学専攻）を御卒業になり、本学には昭和44年4月に助教授として御就任、翌年の4月に教授に昇進されていらっしゃいます。その後、学生部長、図書館長の要職を務められ、また法人理事も兼務されました。そして昭和55年8月に学長事務取扱、56年4月から60年3月まで学長の重責を果たされました。その後も引き続き理事として、大学の運営に参画されています。今日の大学の発展は、先生の多方面での御尽力によるところ大なるものがあります。

先生は学長として、大学の管理、運営に力を注がれ、在任中には、学生会館の建設、野遠薬草園、第二学舎の購入、クラブハウスなどを完成されました。大学院薬学研究科博士課程の設置も、先生の御努力の賜とお聞きしています。また本学創立80周年にあたっては、盛大な記念式典を挙行され、本学の長い歴史と伝統が刻まれた『大阪薬科大学八十年史』を刊行されました。また大学にふさわしいコミュニケーション活動の一環として「学報」を創刊（昭和56年4月創刊）されています。それには「薬学を学び、薬剤師としての道を歩む学生にとっては、ヒューマンな生き方を誇るにふさわしい知識の形成と人格の陶冶が必要だ」と説いておられます。

先生は哲学の教授として学生の教育にも専念され、ドイツ語の授業も担当されました。一方で大学の管理・運営、学生指導など御多忙の中にも多くの研究論文、著書などを発表されています。

このように本学にとっては、先生の御功績は誠に輝かしいものがあります。最後になりましたが、先生の御冥福を心からお祈り申し上げます。

### 堀田輝明先生の略歴

大正12年11月18日	大阪市に生まれる	44年4月	大阪薬科大学助教授
昭和16年3月	旧制大阪府立今宮中学校卒業	45年4月	同教授
18年9月	旧制富山高等学校文科乙類卒業	48年4月	同学生部長（50年5月まで）
10月	旧制京都帝国大学文学部哲学科入学	50年5月	同法人理事（53年5月まで）
12月	同休学（学徒出陣）	51年4月	同図書館長（53年3月まで）
21年6月	同復学（復員）	55年8月	同学長事務取扱（法人理事兼務）
24年3月	旧制京都大学文学部哲学科（倫理学専攻）卒業	56年4月	同学長（60年3月まで、法人理事兼務）
4月	旧制京都大学大学院入学	62年5月	同法人理事（平成8年6月まで）
26年5月	三重県公立高等学校教員	平成元年4月	同嘱託教授
28年10月	旧制京都大学大学院退学	3年3月	同退職
30年5月	大阪府公立高等学校教員	4月	同名誉教授



## 種々よろしくお願い申し上げます

教授 田 中 一 彦

(臨床薬剤学担当)

この10月より、新設講座である臨床薬剤学講座に赴任しました。新設講座でありますから、当然とは言え、見事なほど全く何もなく、各講座なみになるのは何年先のことか…。また、薬学部にも所属するのは初めてのことであり、聞くこと、見ること、全てに戸惑っております。どうか切に皆様方のご教授、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

さて、私は長らく集中治療の分野（ICU）に所属しておりました。いわゆる集中治療の創設期の頃から関与しておりましたが、その頃はICUで使用される薬物の血中濃度を測定するという概念はなく、やっと初期投与量を決定するという段階でした。薬物の初期投与量を決定するだけで、個々の症例に対する投与量との比較で、この症例が重症か、軽症か判断出来るようになり、管理方法が格段に楽になりました。しかし、同じ投与量にもかかわらず、効果が違っている症例が多々ありました。また、ジゴキシンが投与されている症例における不整脈の原因は、全て「ジゴキシン中毒」とされていました（ジゴキシンの測定結果は1ヶ月後、症例のことを忘れた頃に返ってきていました）。1980年代に入り、集中治療の分野においても治療薬物モニタリング（TDM）の考え方が導入されてきました。先程の不整脈の原因は「ジゴキシン中毒」ではなく、かえってジゴキシンの投与量が少なくて発生している場合が多いということが分かってきました。また、抗生物質の使用法においても、ほとんどの場合は抗生物質が効かないのではなく、投与量自体が少ないため効果がないと言うことも分かってきました。これは便利だ？薬物治療を科学的に確立できると思い、以来、TDMの分野の仕事に携わってきました。私の経歴において、医学部に所属し、一般外科、心臓外科、集中治療また麻酔などをしてきましたが、最も長く携わっているのはTDMの分野であり薬物治療の科学

性の確立です。TDMの分野においては、種々の研究をしてきましたが、医師である私がこのような研究が出来、薬物治療法の確立に少しでも貢献出来たのは、医師、薬剤師、臨床検査技師またナースなど患者さんを取り囲む医療スタッフのおかげです。特に薬剤師の人達の指導、協力があってこそです。しかし、現実には、この様な医療スタッフの一員として活動している薬剤師が少ないのは事実です。薬剤師が医療人として薬物治療の現場に積極的に参加するためには、薬学教育において、より一層の臨床にかかわる教育が必要であり、それに携わりたいと考えたのが、私と薬学部との接点です。現在、医療薬学の重要性が言われています。中でもいわゆる「医療の担い手」としての薬剤師の養成が言われています。しかし、これはおかしなことで、薬剤師は元来「医療の担い手」です。医療スタッフ・チームの一員です。基礎薬学の教育および研究の上に、臨床薬剤学の教育および研究を通じて、臨床の場において、薬剤師の立場から自信を持って意見が言える、実力のある薬剤師を育てたいと思っております。また、基礎薬学に進む学生にも、常に人を意識できる教育をしていきたいと思っております。

研究面では、薬物相互作用の基礎および臨床研究、遺伝的多型性、虚血再灌流障害、腎不全症例の薬物動態、循環器病薬の薬物動態などを中心に、常に臨床に立脚した研究を行いたいと思っております。

いろいろと、希望および計画は持っておりますが、最初に述べさせていただいたように、何せ薬学教育に携わるのは初めてのことであり、重ねて、皆様方のご協力、種々よろしくお願い申し上げます。

# 平成10年度市民講座を終えて

市民講座委員長 藤 田 直

今年度の市民講座は、これまでのアンケート結果に基づき、前市民講座委員会で協議された結果、6月と11月の2回開催することになりました。

そこで、当委員会では、市民講座を年2回開催するのであれば、講演内容を従来の「くすり」から少し離れて地球の健康を考えることにし、6月6日(土)開催の第5回市民講座は、「ダイオキシンによる環境汚染と人体への影響」について、摂南大学薬学部教授宮田秀明氏に、「生活習慣病としてみた動脈硬化症—特に、高脂血症を中心として—」については、(財)日本生命済生会附属日生病院副院長(本学非常勤講師)秋岡 壽氏にご講演をお願いいたしました。

演題が、昨今の関心事であったのか、350名の参加者があり講堂は満席となり、本学学生、教職員には向かいの小教室でモニターテレビを見てもらうほどの盛況でした。

玄関ホールでは、今回も草野教授のご協力で、薬草の展示を行いました。好評で、中には薬用植物園の見学をされた方もありました。

恒例の「くすりの相談室」は、本学の中元助教、西野講師を始め次の方々の応援を得て開催し、市民の皆様からの種々のくすりのご相談に応じていただきました。

(50音順、敬称略)

有田 浩和	回生堂薬局
伊藤芙美子	高槻赤十字病院
井尻 好雄	大阪医科大学附属病院
岡本 禎晃	大阪大学医学部附属病院
香川 雅一	八尾市立病院
小島 一晃	高槻赤十字病院
小林 豊英	大阪医科大学附属病院
佐藤健太郎	箕面市立病院
福永 善郎	高槻赤十字病院
松尾 浩	エムケー薬局
名徳 倫明	市立池田病院
山崎 肇	大阪大学医学部附属病院

第6回市民講座は、11月14日(土)に開催し参加者は約160名でした。第1講は、京都大学経済学部

教授西村周三氏に「医療の経済学—薬物治療を例に一」という演題で、第2講は、厚生省近畿地区麻薬取締官事務所捜査第一課長山本儀右エ門氏(本学卒業生)に「薬物乱用はダメ。ゼッタイ」という演題でご講演をお願いいたしました。

西村先生の講演は、患者が医者と薬剤師に対してもっと話すことによって、我が国の医療費に影響を与えることができると、ユーモアをまじえてやさしく話され好評でした。

山本先生の講演は、麻薬等の薬物に一度手を出すと止められなくなる恐ろしさを、データを基に話され、参加者は熱心に耳を傾けていました。

「くすりの相談室」は次の方々のご協力により開催いたしました。

(50音順、敬称略)

井尻 好雄	大阪医科大学附属病院
今井 邦近	大阪第二警察病院
宇梶 明起	泉大津市立病院
岡本 禎晃	大阪大学医学部附属病院
小野 聡	大阪大学医学部附属病院
小島 一晃	高槻赤十字病院
小西 啓之	大阪市立大学医学部附属病院
小林 豊英	大阪医科大学附属病院
近藤 真弓	高槻赤十字病院
高田 益枝	タカダ薬局
名加 真樹	箕面市立病院
中元 安雄	大阪薬科大学
西野 隆男	大阪薬科大学
藤井 泰元	三進堂薬局
松尾 浩	エムセー薬局
名徳 倫明	市立池田病院

最後になりましたが、共催いただきました、大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会、高槻市薬剤師会および本学同窓会ならびに後援いただきました大阪府、高槻市および高槻市教育委員会に厚くお礼申し上げます。

また、多数の企業から試供品、パンフレット等のご提供をいただきありがとうございました。

# 平成10年度公開教育講座

公開教育講座委員長 掛見正郎

本学主催の公開教育講座は、1983年に卒業後教育講習会として発足以来本年で16年目になる。これは全国薬科大学の公開教育講座としては最も長い歴史を持つものの一つで、参加者も極めて多数にのぼっている。この間全国に先駆けて（財）日本薬剤師研修センターとの共催を打ち出すなど、本学の公開教育講座は常に新しい局面を切り開く役割を演じてきた。最近、近隣の他大学でも同様な公開教育講座が増加し、また（財）日本薬剤師研修センターの単位認定も、日本薬学会、日本病院薬学会、日本薬剤学会、日本薬物動態学会の年会で受けられるようになったことから、単に「単位認定」だけが目的ならば本学の公開教育講座の使命は終わったと判断し、今後のあり方を検討することとした。薬剤師が本学の公開教育講座へ期待する内容は、毎年のアンケート結果をみる限り、確実に変化している。このような薬剤師の意識変化の中では、本学の公開教育講座も、社会の要求に適った、より質の高い内容を提供できるよう変革しなければならない。公開教育講座委員会では昨年から種々討議を重ねた結果、多くの人が参加しやすい条件を整備すること、講演の聞き流しを避け、復習が可能な「詳しい講演記録」を残すことを中心に、以下の通り見直しをおこなった。

1. これまでの年1回の集中開催を改め、約3カ月おき年4回（5月、7月、10月、2月の第3土曜日）の通年定期開催すること。
2. これまでのような大規模な講習会ではなく、地域薬剤師、本学卒業生、大学教員のための地道な勉強会として公開教育講座を位置付けること。
3. 年4回のうち3回は「疾病の成因とその最新治療法」、1回は「医薬品情報及び最新医薬品の開発情報」について、系統立てた開催を行うこと。
4. 講演要旨集を簡素化する代わりに、講演内容、スライド、質疑応答を含めた詳細な「講演記録」を発行すること。
5. 参加費の適正化（通年参加費：10000円、1回参加費4000円）と、本学卒業生への優遇措置（通年参加費：8000円、1回参加費：3000円）を行うこと。
6. 旧メディア、新メディア双方による広報を徹底し、インターネット上では講演要旨も予め掲載し、予習を可能にすること。

これら改革元年にあたる本年度の公開教育講座の、テーマ、開催日時、講師、演題は次の通りである。

## 第16回 公開教育講座

高度医療社会での薬剤師の役割（3）

開催日時：平成10年5月16日（土）13時30分～17時30分

開催場所：本学講堂

テーマ：循環器疾患とその治療の最前線

演題1：「高血圧症の成因と薬物療法」

香川医科大学教授 薬理学講座 安部 陽一

演題2：「脳血管障害の病態と治療」

国立大阪病院 総合内科部長 今泉 昌利

## 第17回 公開教育講座

高度医療社会での薬剤師の役割（4）

開催日時：平成10年7月18日（土）13時30分～17時30分

開催場所：本学講堂

テーマ：腎疾患とその治療の最前線

演題1：「腎臓のはたらきとその異常」

浜松医科大学助教授 第一内科講座 菱田 明

演題2：「糖尿病性腎症の病態と薬物療法」

大阪市立医療センター 透析部副部長 今西 政仁

## 第18回 公開教育講座

高度医療社会での薬剤師の役割（5）

開催日時：平成10年10月17日（土）13時30分～17時30分

開催場所：本学講堂

テーマ：新しい概念に基づいた薬の開発とその評価

演題1：「新しい薬物療法として期待されるドラッグデリバリーシステム」

武田薬品株式会社 DDS研究所長 小川 泰亮

演題2：「医薬品情報の収集と評価—患者志向の医療を求めて—」

東京都立府中療育センター副所長 別府 宏暁

## 第19回 公開教育講座

高度医療社会での薬剤師の役割（6）

開催日時：平成11年2月20日（土）13時30分～17時30分

開催場所：本学講堂

テーマ：アレルギー疾患とその治療の最前線

演題1：「花粉症は増えているか—実態と対策—」

大阪医科大学教授 耳鼻咽喉科学講座 竹中 洋

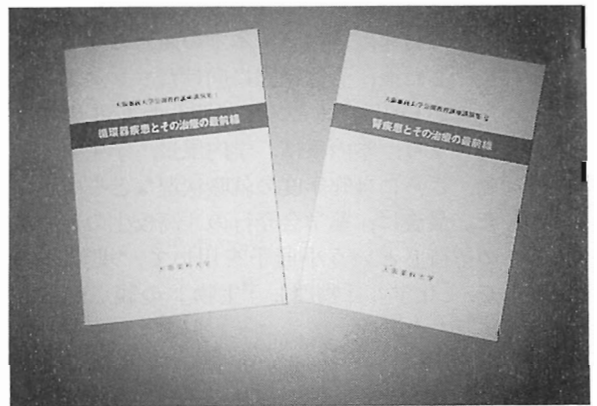
演題2：「笑うカイチュウ—寄生虫はアレルギーを抑えるか—」

東京医科歯科大学教授 医学部医動物学講座 藤田紘一郎

このうち、第16回、17回、18回はすでに終了した。本年は天候不順で3日間とも天候には恵まれなかったが、講師の先生方は熱心に講演され、また参加者も非常に積極的に質問するなど、極めて活気のある公開教育講座であった。これも座長の先生方、あるいは広報活動その他でご協力を戴いた本学職員、会場でスライド係、会場係など裏方として働いて戴いた本学教員、大学院生、4年次生など多くの方々の支援の賜と、深く感謝する次第である。なおこれまで3回の参加者統計は次表の通りである。あと1回の開催を残して、延べ参加者数(382名)、有料参加者数(207名)ともに昨年の数字を越えており、公開教育講座改革元年としては、順調な滑り出しと考えている。ただ、今回の延べ参加者のうち、本学卒業生は199名で、なんとか過半数は超えているものの、まだまだ出足が鈍いのが気になるところである。近隣他大学の公開教育講座は、9割方が自校出身者で占められていることを考えると、本公開教育講座の次の改革の目標は、本学卒業生の参加者をいかに増やすかにある。次回開催は来年2月で、入試業務の繁忙期ではあるが、これまで以上の盛況と参加者増を期待したい。

本稿を終えるに臨み、本年も共催して戴いた(財)日本薬剤師研修センターに御礼を申し上げると共に、後援戴いた(社)大阪府薬剤師会、ならびに開催にご協力いただいた大阪府病院薬剤師会、兵庫県病院

薬剤師会、京都府病院薬剤師会、大阪薬科大学同窓会に心から謝意を表する。



公開教育講座	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回
開催年	1983年	1984年	1985年	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年
開催日数(日)	6	5	4	4	4	4	4	4
有料参加者数	280	120	86	85	57	59	36	44
延べ参加者数	—	—	—	—	—	—	109	104
修了証発行枚数	198	100	68	58	19	43	27	33

公開教育講座	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回	16,17,18回
開催年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年
開催日数(日)	3	3	3	3	3	3	3	3
有料参加者数	34	81	210	323	292	192	177	207
延べ参加者数	82	184	503	774	767	397	373	382
修了証発行枚数	30	42	125	180	208	92	84	—



# 平成10年度進学説明会

教務部長 栗原拓史

平成10年度の進学説明会が初めて大阪と広島での二カ所で実施された。大阪では6月18日(木)に、昨年までの学内から、場所を大阪東急ホテルに移して行われた。昨年までのアンケートを参考にして、変更したものである。入試制度の大幅変更というビッグニュースで、参加の大幅増加を期待したが、135校(141名)と若干の増加(昨年:126校,128名)に留まった。例年通り、岡学長の挨拶に始まり、教務部長から入試概要説明・入試制度変更の骨子・平成11年度入学試験とその概要・平成10年度入学試験データ・平成11年度納付金・本学の履修カリキュラムと順に話した後、受験勉強に向けたワンポイントアドバイスをOHPにまとめて説明した。併せて、入学案内により、学内事情、学内風景、学生生活と課外活動、さらには昨年度の就職状況などを中心に説明した。最後に、薬学会発行の「高校生のための薬学への招待」という小冊子を用いて、「薬学」の面白さを、「化学」、「物理」、「生物」の観点からかき摘んで話した。次いで、コーヒーとケーキで一息

入れた後、ホテルでのゆったりした雰囲気の中で、活発なご質問をお受けした。質問の多くは、F方式と推薦入試に関するものであり、先生方の関心の高さを感じた次第である。

昨年度も話題に出た、他地区での進学説明会を今年度は思い切って広島地区で実施することが4月の委員会で決定され、7月24日(金)に広島全日空ホテルで行われた。午後の前半に教員、後半に受験生を対象に説明会を計画した。入試・広報課の事前の手紙による案内、さらには電話によるPRなどの努力の甲斐もなく、参加者数は予想を全く裏切るものであった。初めての経験でもあり、致し方ないことも知れないが、一考を要すると考える反面、地道な積み重ねも必要なことは間違いないことだと思う。ただ、一教員から、広島地区での入試実施を強く求められたことは、今後の課題として、唯一の収穫であったらうか。

## オープンキャンパス'98と今後の課題

入試実施委員 藤田芳一

本年度のオープンキャンパスが8月7日(金)、21日(金)の両日、岡学長、栗原教務部長、沼田就職部長の進学説明の後、模擬実験の見学、学内見学、個別相談などのスケジュールで行われ、無事終了した。両日のオープンキャンパスに御協力頂きました教職員の皆様、学生諸君に厚く感謝致します。模擬実験は(1)紫雲膏、痔の薬(ボラギノールなど)に使われる紫根の成分分析、(2)コンピュータで遺伝子を見てみよう、(3)電子顕微鏡でミクロの世界を覗く、の3つのテーマであった。両日の総参加者は昨年に比べ幾分減少したが、催し物には概ね好評で、また遠くからの参加者もあり、昨年に比べ少し違った動向がみられた。過去3年間におけるオープンキャンパスの参加者数、願書希望者数、出願者数など及び

本年度のアンケートの結果を参考までに次ページに示す。本学がオープンキャンパスを行い始めてやっと3年なので、本年度の参加者の減少を一時的なものだと捉え、一喜一憂することはないのかもしれないが、今後のオープンキャンパスを考えていくうえでは、出願率( $(\text{出願者数}/\text{参加者}) \times 100$ )など種々の角度からのデータや詳細な追跡調査が必要であると思われる。今後のオープンキャンパスにおける課題としては、オープンキャンパスの時期と回数、各高校への事前通知、過去の入試問題の解説、当日の模擬実験の実施、薬学関連講演、現役学生による学内事情の説明、一日体験入学、あるいは一日体験クラブ活動などの実施、グッズなどの問題、あるいは大阪薬科大学公開週間として、その他の行事(例え



ば、教員進学説明会、公開講座、市民講座、大学見学ツアー、大学祭等)とタイアップして開くなどの運営面での改良などの他、オープンキャンパス開催そのものの是非も踏まえて、今後のオープンキャン

パスのあり方を関係者だけが考えるのではなく、大学の教職員全員が真剣に考えてアイデアを出していく必要がある。

### 3年間の動向

年度	参加者	願書希望者数(%) <sup>・1</sup>	出願者数(%) <sup>・2</sup>	合格者(%) <sup>・3</sup>	入学者(%) <sup>・4</sup>
H 8	355	284 (81.4)	187 (52.7)	データなし	
9	389	297 (76.3)	157 (40.4)	49 (31.2)	38 (77.6)
10	341	263 (77.1)			

<sup>・1</sup> (願書希望者/参加者)×100

<sup>・2</sup> (出願者数/参加者)×100

<sup>・3</sup> (合格者/出願者数)×100

<sup>・4</sup> (入学者/合格者)×100

オープンキャンパス'98 アンケート集計表 8月7日, 21日(金)

アンケート回収数 239 70.1%

【Q1】～【Q3】都道府県・性別・学年

参加者数 314

	滋賀県		京都府		大阪府		兵庫県		奈良県		和歌山県		その他		小計		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
高1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	3
高2	0	1	0	5	1	2	1	2	0	4	0	0	0	0	2	14	16
高3	1	6	3	12	34	78	5	22	3	9	1	11	2	12	49	150	199
高卒受験生	0	0	5	1	6	6	0	3	0	0	0	0	0	0	11	10	21
小計	1	8	8	18	41	87	6	28	3	13	1	11	2	12	62	177	239
総計	9		26		128		34		16		12		14		239		

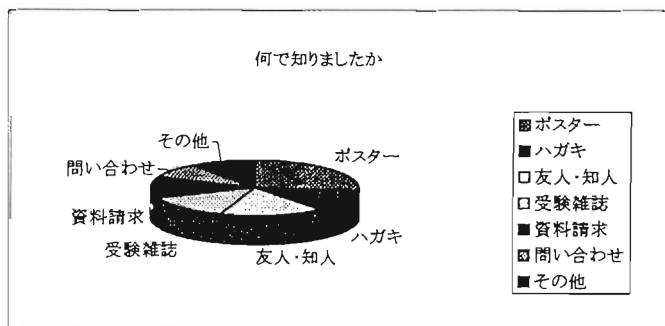
(その他: 三重3, 広島2, 東京, 愛知, 香川, 愛媛, 高知, シンガポール, 未記入各1)

【Q4】「オープン・キャンパス」を何で知りましたか?

ポスター	77
ハガキ	37
友人・知人	47
受験雑誌	39
資料請求	36
問い合わせ	25
その他	30

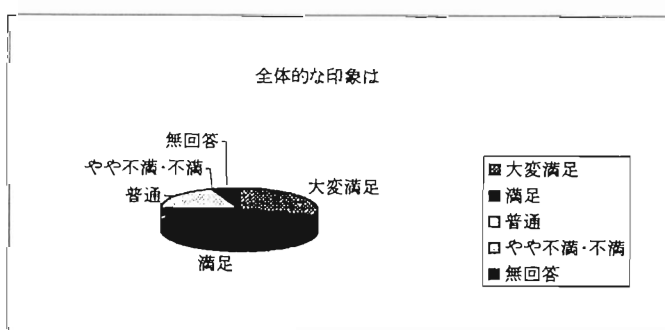
その他の内訳

学校	12
新聞	11
インターネット	6
未記入	1



【Q5】参加したイベントの全体的な印象は?

大変満足	72
満足	107
普通	46
やや不満・不満	2
無回答	12



# 第33回大薬祭を振り返って

—新しい伝統の創造へ

学生部長 坂田 勝治

今年の大薬祭(11月6日～8日)は3日間とも好天に恵まれ、大きい盛り上がりを見せて無事終了した。今その総括をするに当たって、まず最初に、この日のために長期にわたる準備活動に多大の努力をした大薬祭実行委員会の諸君の労を多としたい。取り組み方も早く、メンバーの決定から企画・立案に至るまで、時間をかけて綿密に討議を重ねたことがスムーズな運営につながったと思われる。本年のテーマは『芽—そして草木へ』である。新しい生命の芽生えを大切に育てあげ、大樹を目指して発展しようという意気込みが伝わってきて、いかにも新鮮な若い感覚が感じとれるテーマである。



本学がここ高槻の地に移転して早や3年目である。阿武山の地にもしっかりと根付き、新しい成長・発展を開始して枝葉を拡げ始めた。河内松原の旧学舎とは環境が一変したが、それはただ大学周辺の空間的環境についてのみ言うのではなく、大学を取り巻く社会的状況も大きく変化し、学生の意識にも顕著な変化が読みとれる。今やまさに変化の時代である。本学も松原で培った古き良き伝統を土台にして、その経験を受け継ぎつつ、一層の発展を目指して新しい伝統を創造すべき時を迎えたようである。

大薬祭についても同じ事が言える。これまでの歴代の委員が培った運営方法や経験を踏まえつつも、客観的状況の変化に応じて、一度全体像をオーバー

ホールして見直し、取捨選択し、古い姿から脱皮して新しい伝統を創造すべき時を迎えたようである。既に今年度の学祭にはその傾向が現われ始め、新しい姿の学祭の誕生へと向う息吹きが感じられる。今まさに学生によって新しい『芽』が植えられた。これが『草木へ』と育ち、『大樹』に成長していくかどうかは今後の努力にかかっている。

今年度はユニークな催しも出現した。大学近くの幼稚園児や保育園児が多数参加して、特別出演した企画は好評であった。地域との交流を目指して計画したとのことであるが、付添いの家族も満足気だったし、キャンパスは大勢の人出でにぎわった。ただ、他の催し物の数や内容が例年通りであったのは改善の余地がありそうである。「リサイクル依存症」や「タレント依存症」が依然として残ったままであるのは、一考を要する。



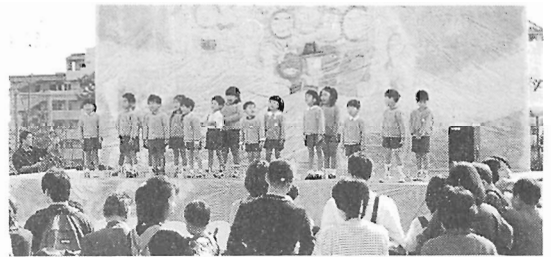
ひとつ非常に残念でならなかったのは、例の和歌山市での毒カレー事件の影響で、模擬店における飲食類の販売を中止せざるを得なかったことである。薬物・毒物の管理に強い責任を持つ大学として諸般の事情を考慮してあの結論を出さざるを得なかったが、学生が了解してくれて、種々のゲームを考案して出店し、それが好評で非常に盛り上がりを見せたのは本当に嬉しく思った。

大学祭は学生の祭典である。平素は授業に追われ、

単位修得に緊張した状況下で毎日を過しているのだから、こんな時こそ「みんなの大学祭」として一人でも多くの人に参加して、心の栄養補給や充電のための時間として活用してもらいたいものである。最後に、最近の大学生一般の傾向についての寸感（大葉祭プログラムに記載したもの）を記して締めくくりとしたいと思う。

「思うに今の日本の社会的・文化的な精神風土の中では、『夢・理想・ロマン・純粹』などという言葉は気恥ずかしくて口に出しにくいし、もはや死語に近いのかも知れない。しかしそれらを臆することなく堂々と主張できる特権を持っているのが、まさ

に学生という存在ではなかろうか。大学祭でもそういう一面を是非みたいと思う。昨今、日本各地の大学祭が一律化し、あまりにも娯楽本位、刹那主義的傾向が強過ぎるという批判がある。楽しいものであってほしい、という希望と同時に、知性がキラリと光るものが少しはあってほしいという思いが語られている。時代の風潮の影響力は強大であるが、そんな時代の流れ、「トレンド」とかに流されず、敢えてそれに倅さすような気概と反骨精神があっても良いのではなかろうか。そういう気概が垣間見られるような硬派の企画があってもよいのではなかろうか。」



# 平成10年度就職状況中間報告

## 就 職 部

21世紀を目前にして、なお明るさを取り戻せない景気が今後どうなるのか懸念されますが、社会全体の雇用需要は昨年以上に低下しているようです。このような中で、薬学生を取り巻く就職戦線はほとんどすべての業種で「量より質を求める」厳選採用となっており、伝統ある本学学生といえども大変厳しい状況になっています。また、就職協定廃止2年目を迎えた今年の就職戦線は、早期化、長期化、多様化の様相が出てきてます。

このような情勢を踏まえ新4年次生には早めの就職ガイダンス（昨年9月に第一回をその後計3回実施）と「個人面談」（4日間）を行い、企業の名前やイメージにとらわれず、自己の能力や適性に合った就職先の選択や適切な就職活動への指針などについてきめ細い指導をしてきました。この「個人面談」による学生の進路希望調査状況（平成10年度卒業予定者）は、前号（学報37号10ページ）に記載していますので参考にしてください。

本年度の就職活動は、すでに3月頃より製薬企業と一部調剤薬局、ドラッグストアのセミナーへの参加などで活発化しました。今年の求人数は、薬業関連企業、病院ともに大幅に減少し、その反面、調剤薬局、ドラッグストアなどでは激増しております。これは保険制度改革や医薬分業の促進から予測されたものの昨年度より大幅に変化しており、学生の薬業関連企業や病院への就職希望の多い現況とは大きなギャップとなっています。

医薬分業率は大阪府下では、全国平均の約半分（15%）ですが、最近、国立大阪病院、国立大阪南病院、国立循環器病センターなどの院外処方せん全面発行や大阪大学医学部附属病院、東大阪市立総合病院などの広域病院の院外処方せん部分発行により医薬分業が急速に進展してきています。その結果、調剤薬局などの薬剤師の求人市場が活発化しています。しかし、今年前半の就職活動から、学生の就職意識の多様化や大手・ブランド志向がうかがわれ、これから就職活動する者がどこまで希望通りの就職ができるかどうか大変厳しい状況下にあります。

夏休み明けには薬業関連企業からの求人依頼はほ

ぼ終わり、一部病院薬剤師の新卒求人が期待されるものの、現実には既卒者又はパートで欠員補充する傾向が表われています。

平成10年度卒業予定者（46期生）の現在までに内定した状況は、表に示すとおりです。薬業関連企業の医薬情報担当者（MR）が昨年と比べ約半数の内定状況と大変厳しく、その反面、調剤薬局、ドラッグストアへの就職内定者が増え、本学の過去の就職状況と比べ就職先の業種が大きく様変わりしてきています。進路未定の学生で薬剤師免許取得を第一義と考える者が年々増加傾向にありますが、現時点の全業種への内定率は例年とくらべ数ポイント低い状況にあります。

最近ではこれら就職活動に際して、企業は勿論のこと病院、薬局などにおいても学生の目的意識、マナーなど人間性が重視され、今後の学生に対する就職指導への重要項目と考えてます。3年次生には10月5日（月）に第一回就職ガイダンスを実施し、薬学生を取り巻く就職環境や就職活動を始めるに当たっての心構え、就職斡旋に関する手続き、マナーなどを「就職の手引」書をもとに指導しました。

就職は人生を左右する一因であり、就職に関して学生自らの努力は勿論のこと、関係各位におけるご指導、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

平成10年度卒業予定者（46期生）進路状況

（平成10年10月20日現在）

区 分	男子	%	女子	%	合計	%
薬業関連企業（営業）	14	16.1	13	6.1	27	9.0
（内勤）	2	2.3	13	6.1	15	5.0
病 院 ・ 診 療 所	1	1.1	5	2.3	6	2.0
研 修 生	2	2.3	11	5.2	13	4.3
薬 局 ・ 小 売	8	9.2	36	16.9	44	14.7
公 務 員			1	0.5	1	0.3
教 職 員			1	0.5	1	0.3
大学院・研究生	16	18.4	13	6.1	29	9.7
そ の 他						
内 定	43	49.4	93	43.7	136	45.3
未 定	44	50.6	120	56.3	164	54.7
合 計	87	100.0	213	100.0	300	100.0

# 平成9年度学校法人決算について

事務局長 河野 光 次

去る平成10年5月20日に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成9

年度決算が審議のうえ承認されたので、消費収支計算書（総括表）を掲載することとした。

## 平成9年度消費収支計算書

{平成9年4月1日から  
平成10年3月31日まで}

消費収入の部 (単位 円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	2,331,100,000	2,468,305,000	△ 137,205,000
手 数 料	85,400,000	101,933,732	△ 16,533,732
寄 付 金	5,000,000	20,334,438	△ 15,334,438
捕 助 金	243,000,000	2,973,845	240,026,155
資産運用収入	5,000,000	12,760,962	△ 7,760,962
事 業 収 入	4,000,000	2,486,000	1,514,000
雑 収 入	22,000,000	55,231,945	△ 33,231,945
帰属収入合計	2,695,500,000	2,664,025,922	31,474,078
基本金組入額合計	△ 375,000,000	△ 372,300,314	△ 2,699,686
消費収入の部合計	2,320,500,000	2,291,725,608	28,774,392

消費支出の部 (単位 円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
人 件 費	1,354,450,000	1,308,012,534	46,437,466
教育研究経費	860,500,000	809,263,638	51,236,362
管 理 経 費	176,300,000	138,575,989	37,724,011
借入金等利息	371,600,000	321,627,739	49,972,261
資産処分差額	0	463,435	△ 463,435
[予 備 費]	10,000,000		10,000,000
消費支出の部合計	2,772,850,000	2,577,943,335	194,906,665
当年度消費支出超過額	452,350,000	286,217,727	
前年度繰越消費支出超過額	2,237,000,000	2,175,335,180	
翌年度繰越消費支出超過額	2,689,350,000	2,461,552,907	

### ■ 学費の改定について (学部)

本学では、平成5年度より学費スライド制を実施しています。

これに伴い、来年度（平成11年度）の学費について諸般の事情を考慮し慎重に検討を重ねた結果、約3%（5万円）の値上げおよび費目の改定を決定しました。

したがって、平成5年度以降の入学生の学費は、次のとおりとなります。（平成4年度までの入学生の学費については改定されません。）

費 目	現 行	改定後
授業料 (年額)	1,000,000	1,200,000
施設・設備費 (年額)	550,000	600,000
実験・実習費 (年額)	200,000	0
計	1,750,000	1,800,000

## 総務課だより

### □ 人 事 □

採用 (平成10年10月1日付)  
教授 田中 一彦 (臨床薬剤学教室)

嘱託 (平成10年10月20日付)  
事務職員 田中 真紀 (総務課)  
(平成10年12月1日付)  
事務職員 中 千晶 (経理課)

非常勤講師 (平成10年9月1日付)  
織田 行雄 (衛生科学3)  
斎藤 武 (数学2)  
田口 侑男 (数学2)  
福森 義信 (基礎薬剤学)  
村田 吉郎 (病態生理学概論)  
山内 真理 (英語2)  
山田 明男 (医薬品毒性学)  
和田 武夫 (生物統計学)

客員研究員 (平成10年10月1日付 期間半年)  
天形 太郎

委 嘱 (平成10年11月16日付)  
大阪薬科大学附属調剤薬局 掛見 正郎 (教授)  
設置準備委員長

退 職 (平成10年7月31日付)  
宮崎 優子 (総務課事務職員)  
(平成10年9月30日付)  
花木 浩志 (第二微生物学教室助手)  
(平成10年10月14日付)  
山崎 和美 (経理課事務職員)

### □ 海 外 出 張 □

玄番 宗一 教授 (第二薬理学教室)  
＜出張期間：平成10年7月25日～8月2日＞  
The 13th International Congress of Pharmacology (München, Germany) にて発表  
高岡 昌徳 助手 (第一薬理学教室)  
＜出張期間：平成10年7月25日～8月2日＞  
The 13th International Congress of Pharmacology (München, Germany) にて発表  
石田 寿昌 教授 (第二物理化学教室)

＜出張期間：平成10年8月17日～8月22日＞  
The 3rd Symposium on Frontiers in Protein Chemistry and Biotechnology (Changchun, China) にて発表

大石 宏文 助手 (情報科学解析センター)  
＜出張期間：平成10年8月30日～9月13日＞  
The 15th IFIP World Computer Congress (Vienna, Austria; Budapest, Hungary) にて発表  
The 13th International Round Table (Montpellier, France) にて発表

千熊 正彦 教授 (第一分析化学教室)  
＜出張期間：平成10年8月23日～8月31日＞  
The 22nd Conference of the International Society for Fluoride Research (Bellingham, WA, U.S.A.) にて発表

### □ 学 位 授 与 □

博士 (薬学) (平成10年6月16日付)  
博第10号 天形 太郎  
海洋生物由来真菌の細胞毒性代謝産物に関する研究

#### 平成11年度

#### 大学院薬学研究科博士前期課程 (修士課程) 入学試験結果

(1次募集)

募集人員 30名  
出願期間 平成10年7月24日 (金)～8月6日 (木)  
学力試験 8月20日 (木) [外国語科目 (英語), 専門科目]  
合格発表 8月27日 (木)  
志願者 33名 [男子19 (学外1), 女子14]  
受験者 33名 [男子19 (学外1), 女子14]  
合格者 27名 [男子15 (学外1), 女子12]

(2次募集)

募集人員 若干名  
出願期間 平成10年10月8日 (木)～10月14日 (水)  
学力試験 10月20日 (火) [外国語科目 (英語), 専門科目]  
合格発表 10月26日 (月)  
志願者 4名 [男子3, 女子1]  
受験者 4名 [男子3, 女子1]  
合格者 4名 [男子3, 女子1]

## 学生課だより

### ◆ 学生証の更新について

赤色の学生証（平成9年および平成7年以前の入学）の有効期限は、平成11年3月31日までとなって

います。このため新年度に向けて学生証更新の手続きが必要になります。更新時期・手続きは、学生部の掲示板で案内しますので、見落とさないようにしてください。

## 奨学生状況

平成10年11月1日現在

### 1. 日本育英会

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	合計
1種	24	18	23	25	7	8	0	0	1	106
2種	13	21	22	24	1	2	0	0	0	83
計	37	39	45	49	8	10	0	0	1	189

### 2. その他の育英・奨学会

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	計	給・貸
小野奨学会 30,000円	1	1	1	1	—	4	給
大東育英会 25,000円	0	1	0	0	—	1	給
朝鮮奨学会 25,000円	1	0	0	2	—	3	給
佐藤奨学会 19,500円	1	0	0	0	—	1	給
奥村奨学会 30,000円	1	0	0	0	—	1	給
南都育英会 50,000円	1	0	0	0	—	1	(貸)一部給
大阪府育英会 28,000円	1	2	4	4	—	11	貸
東大阪市奨学会 17,000円	0	1	1	0	—	2	貸
岡山県育英会 44,000円	2	0	1	1	—	4	貸
島根県育英会 52,000円	1	0	0	0	—	1	貸
岩国市 20,000円	0	0	0	1	—	1	貸
鯖江市 28,000円	1	0	0	0	—	1	貸
育友会奨学会 40,000円	6	5	0	1	2	14	貸
電通育英会 25,000円	0	0	0	1	—	1	貸
あしなが育英会 40,000円	1	0	0	0	—	1	貸
合計	17	10	7	11	2	47	



## 「関西薬連・全薬大会」結果（平成10年度）

■ 関西薬連		団 体	個 人	
剣 道 部	男子	5位		
	女子	6位		
硬 式 庭 球 部	男子	1位		
	女子	2位		
硬 式 野 球 部		4位		
サ ッ カ ー 部		予選敗退		
柔 道 部	男子	2位	男子有段 1位・神農②	男子無段 3位・瀬戸③
	女子	2位	女子個人戦 1位・木下③	
ソ フ ト テ ニ ス 部	男子	3位	男子個人戦 4位・山中③・梅北②	
	女子	2位		
卓 球 部	男子	3位	男子シングルス 2位・中田① 3位・浦田①	男子ダブルス 2位・山本③・頼原①
	女子	2位	女子シングルス 2位・平上③	女子ダブルス 1位・平上③・堀井③
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部	男子	1位		
	女子	1位		
バ ド ミ ニ ョ ン 部	男子	3位	男子ダブルス 2位・宮本③・福田①	男子新人戦 3位・岡本①
	女子	7位	女子ダブルス 3位・廣原③・中村③	
バ レ ー ボ ー ル 部	男子	6位		
	女子	3位		
陸 上 競 技 部	総合	2位		
	男子	総合 2位		
		トラック 4位	4×100mR 3位	4×400mR 3位
		フィールド 1位	三段跳び 1位・竹本①	走り高跳び 1位・上村①
			走り幅跳び 3位・上村①	円盤投げ 3位・山下②
			砲丸投げ 3位・竹本①	やり投げ 2位・溝上②
	女子	総合 1位		
		トラック 2位	4×100mR 2位	
			100mH 1位・尹① 2位・斎田①	400m 3位・出口③
		フィールド 1位	走り幅跳び 3位・寺下③	
		円盤投げ 2位・鈴木③		
■ 全 薬				
剣 道 部	男子	2位		
	女子	3位		
ソ フ ト テ ニ ス 部	男子	3位	男子個人戦 2位・西田③・石川② 4位・山中③・梅北②	
	女子	1位		
卓 球 部	男子	2位	男子ダブルス 3位・山本③・頼原①	
	女子	4位	女子シングルス 1位・平上③	
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部	男子	3位		
	女子	1位		

注) ○内は学年, Rはリレー, Hはハードル

## 図書館だより

### ◆ 寄贈図書について

このたび、下記図書・雑誌のご寄贈がありました。お志に感謝し、大切に利用してください。

(平成10年4月～10月受入分)

- 中村益久 非常勤講師  
American Journal of Hypertension (雑誌)  
(1988年～1998年)
- 保坂康弘 前教授  
医・薬科ウイルス学 (改訂版)
- 田中一彦 教授  
TDM 研究 (雑誌) (1984年～1998年)  
TDM マニュアル  
Advance in Therapeutic Drug Monitoring.  
その他 5冊
- 玄番宗一 教授  
薬物バイオアベイラビリティ評価と改善の科学  
その他 3冊
- 藤田芳一 助教授  
活性酸素が死を招く  
物質の理解  
その他 3冊
- 濱中久美子 助教授  
現代独和辞典  
和独辞典  
その他 12冊
- 本学同窓会  
医療用医薬品集+CD-ROM セット  
薬事衛生六法集 1998年版  
医薬品服薬指導情報集 第8集～第13集  
その他 6冊

その他にも多数ご寄贈がありました。誌面を借りて謝意を表します。

## ■ 平成11年度推薦入試について

前号(学報第37号)でお知らせしたとおり、平成11年度入試試験から制度が大幅に変更となり、このうち推薦入学試験が去る11月15日に実施されました。

今回から「総合科目」という試験が課されることとなったことや、募集人員を10名減の60名としたことから、どれくらいの志願者があるのだろうかという懸念があったにも関わらず199名の志願者があり、前年に比べ数は若干減少したものの倍率は僅かながら上昇しました。

また平成5年度入試から推薦入試が実施されておりますが、試験当日欠席者が無かったのは過去に例が無く、これは受験者全員の、本学へ入学したいという強い意志の現れかとも思われます。しかしながら、全員に入学していただくことは不可能で、一部の方に朗報が舞い込むのは12月1日となります。

なお、推薦入学試験と同時実施の予定であった帰国生徒特別選抜は、異文化を経験し個性豊かな志願者のあることが期待されましたが、志願者が無く、実施されませんでした。

## ■ 実験動物慰霊祭

平成10年度も従来通り、下記の要領で実験動物慰霊祭を執り行う予定ですので、教職員・学生等関係者は、ご参集ください。

記

日時 12月15日(火) 12:15 ~ 12:45

場所 講堂



## 平成10年度後期行事予定

### 平成10年

- 9. 1(火) } 前期再試験(4年次生・1～4年次全科目)
- 9. 18(金)
- 9. 4(金) 前期再試験受験者発表(1～3年次生)
- 9. 9(木) } 前期再試験(1～3年次生)
- 9. 25(金)
- 9. 21(月) } 薬学総合演習第4回総合試験(4年次生)
- 9. 22(火)
- 9. 25(金) 就職ガイダンス(3年次生)
- 9. 28(月) 後期授業前半開始(1～3年次生)  
特別再試験(4年次生)受験者発表
- 10. 2(金) 後期選択科目・選択必修科目(1～3年次生)  
履修届提出締切(教務課)午後3時
- 10. 5(月) } 特別再試験(4年次生)
- 12. 21(日)
- 10. 20(火) 平成11年度(第2次)大学院修士課程入学試験
- 10. 26(月) 平成11年度(第2次)大学院修士課程入学試験合格者発表
- 11. 5(木) 第33回大薬祭準備(午後臨時休講)
- 11. 6(金) } 第33回大薬祭等(臨時休講)
- 11. 9(月)
- 11. 15(日) 平成11年度一般公募制推薦入学試験(S方式)  
・帰国生徒特別選抜入学試験(K方式)
- 11. 21(土) 薬学総合演習第5回総合試験(4年次生)
- 11. 28(土) 薬学総合演習第5回総合試験(4年次生)
- 12. 1(火) 平成11年度推薦入学試験(S方式)・帰国生徒特別選抜入学試験(K方式)合格者発表
- 12. 2(木) 消防訓練
- 12. 15(火) 実験動物慰霊祭
- 12. 18(金) 就職ガイダンス(3年次生)
- 12. 22(火) 後期授業前半終了(1～3年次生)
- 12. 22(火) 薬学総合演習正規試験(4年次生)
- 12. 24(木) 薬学総合演習正規試験(4年次生)

### 平成11年

- 1. 8(金) 後期授業後半開始(1～3年次生)
- 1. 13(水) 後期授業後半終了(1～3年次生)
- 1. 14(木) 平成11年度大学入試センター試験実施準備  
(午後臨時休講)
- 1. 16(土) } 平成11年度大学入試センター試験  
(一般入学試験C方式)
- 1. 17(日)
- 1. 18(月) } 後期定期試験(1～3年次生)
- 1. 29(金)
- 1. 26(火) } 薬学総合演習再試験(4年次生)
- 1. 27(水)
- 1. 29(金) 就職ガイダンス(3年次生)
- 2. 1(月) 平成11年度一般入学試験F方式(本学・大阪予備校)
- 2. 2(火) 後期定期試験(1～3年次生)欠席届提出締切(教務課)午後1時
- 2. 7(日) 平成11年度一般入学試験C・F方式合格者発表
- 2. 8(月) 特別再試験(4年次生)成績発表
- 2. 9(火) 平成11年度一般入学試験G方式(本学・大阪予備校)
- 2. 10(水) 後期再試験(1～3年次生)受験者発表
- 2. 15(月) } 後期再試験(1～3年次生)
- 2. 26(金)
- 2. 16(火) 平成11年度一般入学試験G方式合格者発表  
卒業生発表(教務課)
- 3. 2(火) 個人面談(3年次生進路・就職)
- 3. 上旬
- 3. 4(木) } 薬剤師国家試験模擬試験(4年次生希望者)
- 3. 5(金)
- 3. 13(土) 第46期学部卒業式および第23期大学院学位記授与式
- 3. 19(金) 進級者発表・進級者未修得科目発表(教務課)
- 3. 27(土)
- 3. 27(土) } 第84回薬剤師国家試験(厚生省)
- 3. 28(日)

---

---

## 編集後記

移転事業を了えて二年有半、教職員や学生はすっかり新しいキャンパスライフに馴染んだかのようなのである。しかし、時代の大転換期の只中であって本学の前途も決して平坦ではなく、私たちは力を合わせ着実な歩みで、山積する課題を解決し展望を切り拓いていかなければならないと言えよう。

学報が「大学の公的要素をもつ記事を中心に編集する小冊子」と自己限定して再出発してから本号で4回目、そのスタイルも定まってきた。一方で、今年度からワーキンググループに加わった一編集子としては、記事の選定・粗密・文体の統一、新たな企画等を再検討し、各執筆者の個性を活かしながら、学報としての純度を高める工夫を凝らすべき秋にあると思える。諸兄弟のご意見をお伺いする次第である。

(加藤 記)

広報委員会 学報編集ワーキンググループ

岡 源郎, 千熊 正彦

加藤 義春, 有本 正生

安田 正秀, 北氏 明正

藤田 純生, 高橋 嘉明

伊藤 美雄

---

---

# 葦

発行

大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1

TEL (0726) 90-1000 (代表)

FAX (0726) 90-1005

URL : <http://www.oups.ac.jp>